

長久手市役所では、この4月、新規採用職員15人を迎えました。

4月1日、異動した職員及び新規採用職員約50名が参加して辞令交付式が行われました。その辞令交付式の際に、市長があいさつされたことをご紹介します。

辞令交付式にあたり、ひと言ごあいさつ申し上げます。

まず、昇任されたみなさん、おめでとうございます。そして、新規採用職員のみなさん、お待ちしていました。(愛知県等に)派遣される職員のみなさんは、体に気を付けて、頑張ってきてほしいと思います。

さて、2050年に向けて、日本の人口は減っていきます。昭和30年代と同じ水準の9,000万人になるといわれています。それに備えて、このまちをどうしていくべきか、私は次のように考えています。

一つ目は、住民のみなさんに自分たちの問題は、自分たちで解決できる力をつけてほしい。「人の役に立っている」と実感してもらい、誰にでも役割と居場所を持っていただきたいと思います。

二つ目は、市職員も自分で考え、行動し、提案してほしい。提案するためには、現場に出て、課題を見つけ、他所へ視察に行き、解決策を見つけてほしい。

提案をしやすくするためにも、柔軟な組織にしていく必要があると思います。一つの提案の解決策が、部をまたがると、なかなか上手く進まないのが現状です。部や課を超えて、仕事が手伝えるような組織、雰囲気にしていきたいと思っています。

これからさまざまな課が、さまざまな勉強会を行います。それら勉強会をどう広報していくのか、どうしたら人が勉強会に集まってくれるか、各課が悩みながら実施していきます。市職員のみなさんもアンテナを高くして、そういう勉強会にどんどん参加してほしいと思います。

最後に新規採用職員のみなさんに一言。

笑顔であいさつをしてください。採用担当には、「あいさつのできない人は、採用するな」と言いました。

今、子育てが上手くいかない、仕事が上手くいかないなどと、心を病んでいる人が多いです。新規採用職員のみなさんたちが困っていると、上司が「大丈夫か？」と声をかけてくれます。それと同じように、みなさんたちも地域で困っている人がいたら、「どうですか?」「大丈夫ですか?」と声をかけてほしい。声をかけるのがちょっと難しいのであれば、まずは、あいさつをしてほしいと思います。

先日、テレビで「ふるさととは人だ」と言っているのを見ました。そう言われる人を育て、誰にも居場所と役割のあるまちにしていきたい。1年、どうぞよろしく願いいたします。